
平成 11 年度事業中間報告

1. 自主研究

若者に魅力ある都市創造、都市環境づくりについて

和歌山大学経済学部

教授 小田 章

本研究は平成 11 年度事業として立ち上げたが、平成 12 年度の継続事業として取り組むことにした。

和歌山県における人口動態の特徴として、総人口の横ばい傾向、若者層の県外流出、そして高齢化の促進等が挙げられる。特に、若者層の県外流出は和歌山地域の活力低下をもたらす原因になっている。若者の県外流出が惹起する因としては、和歌山には高等教育機関（大学）が少ないこと、雇用機会が少ないこと等があげられる。従って、こうした問題を解決することが、若者の県内残留を可能にすることにつながっていく。しかしそれだけでは十分と言えない。県内の若者の残留率を高めるとともに必要なことは、県外から若者を誘導できるように都市創造を考えてゆくことが必要になる。

本研究は、こうした視点に立って、一体若者にとってどのような都市が魅力的なのか、そして和歌山地域が有する自然・社会資源を活用して、そうした都市づくりが可能かどうかを検討しようとするものである。

そのためにこれまで「若者にとって魅力ある都市」について、議論を深めてきたが、その中で、先行地域を参照にしながらも、和歌山独自の都市づくりを目指すことが不可欠であるという結論に至った。そこで、国内外の先行地域を視察し、それをベースに新しく、魅力的な都市づくりを考えていくことにしている。現時点では、和歌山の自然・社会の特殊性を考慮しながら、国外では、アメリカ、ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリア等の街を視察し、それをヒントに新たな都市創造の在り方を探ることにした。これからの時代は、定住と交流とのバランスのとれた都市づくりが求められていくと思われる。若い世代層には交流を、中高年世代には定住を中心とした都市創造を検討し、そのためのモデルをつくり、行政等に提言してゆきたい。